

# 南アルプス市立白根源小学校

## 令和3年度 後期学校関係者評価書

白根源小学校学校評価委員会

### はじめに

本年度一年間は、昨年度同様コロナ感染症対策を十分に講じた上での学校生活であった。職員も児童も多くの学校生活の場面で制約せざるを得ない状況の中、「教育の歩みを止めない」という気持ちを強く持ち、今できる最善の学校教育を行い、精いっぱい学校生活を送ってきた。そのような中での学校評価である。まず、自己評価・児童アンケート・保護者アンケートの結果を職員全員で真摯に受け止め、成果や課題を考察し、今後の具体的な取り組みについてまとめた。そして、本来は学校関係者評価委員会を開催し、より良い学校経営へと向かうよう話し合いを行うべきであったが、コロナ感染症対策を考慮し、前期同様に後期も委員が集まって評価委員会を行うことはできなかった。そこで、学校関係者評価委員会の委員が個々に学校が作成した自己評価書を見て、それぞれに評価意見を挙げた。それらをここにまとめ、学校に提案することで、今後の学校運営の一つの指針としてほしい。

### 今回の学校関係者評価

- ① 学校による自己評価書を受けての、学校関係者評価委員による意見の集約
- ② 評価書の作成と学校への還元

#### 学校評価委員

深澤 一仁（前源地区自治会連合会長）  
有野 守代（主任児童委員）  
有野 正樹（元白根源小学校校長）  
甘利 元（元PTA会長）  
小林 幸次（源地区自治会連合会長）  
小澤 順司（源地区育成会長）  
小林 登茂（PTA会長）



### これまでの経過

12月15日	学校関係者評価委員への自己評価書配布
1月21日	→ 意見・集約
	学校関係評価書 作成
1月28日	学校関係者評価書 職員報告（職員会議）
1月31日	評価書 学校関係者評価委員に配布 市教委に提出

## 自己評価の結果を受けて

○良い点・期待すること ▼改善すべき課題 △要望

### 学校教育目標，経営方針・学校運営

○今回も、先生方が同じ思いで取り組んでいることがよく分かる。特に、PDCAサイクルを意識して常に改善の努力をしていることは本当に素晴らしい。1学期，2学期ともにA評価が100%であることにあらわれている。

○肯定的な評価が多く、職員が一丸となって教育活動に取り組んでいる様子がうかがえる。

△子ども達が安全で安心して学習活動に取り組めるように、引き続き「危機管理意識の保持」に努めてほしい。

### 学級経営，学習指導

▼いくつかの項目で、1学期と比べて下がっているところが見受けられるが、原因を検証する中で改善に向けて取り組んでほしい。

△行事への取り組みが増える2学期は、どうしてもきめ細かな学習指導に関わる時間も取りにくくなると思う。児童成長のために各行事が担う意義も大きいので難しいが、全校での授業スタイルの研究や長期休みを利用した計画的な準備など、工夫を重ね、ぜひ分かる授業の実施をこれからも注力してほしい。

△家庭と連携して学習習慣を身につけさせていくことは、家庭（保護者）の考え方ややり方がそれぞれ違うので難しいことではあるが、粘り強く取り組んでほしい。

### 児童理解，生徒指導

○「多くの児童が落ち着いた生活を送っている」ということで、先生方が意欲的に指導している様子がうかがえる。

### 保護者・地域連携

○この地域の特性を生かし、今後も継続して連携・協働に努めてほしい。

△先日の近隣の小学校の休校の情報について、開示できる情報は学校メールで保護者へ共有していただいた方が良かったと感じた。「子どもが先生から聞いた情報」として受け取ったが、注意を呼び掛ける観点から、正しい・同じ情報を紙面で見られたら良いと思った。必要以上に不安になった人が多かったかもしれない。

△児童登下校中の見守り等、協力いただいている方々には感謝を！

## 児童アンケートの結果を受けて

○良い点・期待すること ▼改善すべき課題 △要望

### 学習・授業について

▼全ての項目においてA・B評価が多い中で、少数のC・Dに該当する児童の意見をどのように吸い上げて、A・Bに移行させるか。

△「継続は力なり」の言葉通り、引き続き、きめ細かな対応をしていただき、すべての児童に「分かる楽しさ」を味わわせてほしい。

△「楽しい」「分かる」を回答している子がほとんどであることは、安心して子ども達を学校に通わせることができる。ただ、考察でも書かれているように、8%（「学校が楽しいか」でCD評価児童）、6%（「授業が分かるか」でCD評価の児童）の子ども達に目を向けることも忘れないでほしい。少人数なので、ある程度対象の子ども達も分かるのではないかと思う。

### 生活面について

○生活面において、肯定的な考えが多いことに安心した。

○教師と子どもとの信頼関係が強いということで、さらにこの良好な関係を継続して行ってほしい。

### 学校外での生活について

▼以前に比べ登下校中の地域の人たちとのあいさつが減ってきていると感じる。コロナ禍でマスク、人との接触など難しいとは思いますが…。

△朝夕の登下校時に児童から元気にあいさつしてくれることもあるが、そうできない児童もいる。そのことが児童アンケートにも出ていると思う。地域で見かけたら大人から声をかける(あいさつをする)ことで、児童にも地域や家庭であいさつをする良さが浸透していくと思う。

△コミュニケーションの基本・入り口である「あいさつ」、これからもあいさつの大切さを指導していく中で、コミュニケーション能力を高めて行ってほしい。

### 家の人との会話について

▼災害についての話し合いを家庭の中でもっと話すべきだと思う。生きていく中で大切なことだと思う。

△家庭において日常的に災害について話ができるよう、引き続き学校からも呼びかけてほしい。

### 携帯電話・スマートフォンの使用について

△小学生でもスマートフォンを持っている子が20%を超える現実がある。タブレットでの学習も推進されていることもあるので、家での約束づくり、学校での情報リテラシーの育成などは、組織的・計画的に行っていくしてほしい。

△スマートフォン等を持っている児童が増加している中、家庭と学校とが連携し、正しい使い方について共有していく必要性を感じる。

## 保護者アンケートの結果を受けて

○良い点・期待すること

▼改善すべき課題

△要望

### 学校教育・保護者との連携について

△保護者の方に教育活動を理解してもらうためには、多種多様なツールを使って発信していくことが必要である。引き続き、創意工夫し伝えて行ってほしいと思う。

### 学校経営・学習指導・児童理解について

○保護者の肯定的な評価が多いことは、先生方の子ども達との関わる姿勢にあると思われる。今後も一人一人の個性を大事にしながらかみ細かく支援してほしい。

▼授業に対する保護者のコメントには厳しいものもありますが、「つまらない」「分からない」とそう親に言っている児童がいることも事実ということ。どんな点が課題となるのか、少数意見ではありますが話し合ってみる価値はあるように思う。

### 保護者自身の児童理解について

△不安を抱えた保護者には、安心感が持てるよう対応してほしい。

### 保護者自身の学校への関りについて

▼学校からの便りはデータでほしいという意見があったが、見ない人が増えるのが心配である。

△学校からの〇〇便りは今後も継続してほしい。ただし、一日で何枚かの便りが重なると多くて見るのを忘れることがある。曜日で分けるとか、一日一枚くらいが理想的に感じる。

### 保護者自身の子どもへの関りについて

△学校保健委員会で取り上げたゲームの弊害を学ぶ機会のように、これからも保護者が児童と一緒に「学ぶ」機会を学校開放日や参観日等に設けてほしい。そのことで同じ課題について親子で考える

機会になると思う。

△保護者の家庭学習への関りは、仕事などで忙しいので大変なことは理解できるが、もう少し意識してほしいと感じる。本当に学力(広い意味での学力)をつけていきたいと思ったら、家庭学習が大切であることを学校からも伝えてほしい。

## その他 全体を通して

- ※子ども達の学校に対する満足感が高く、先生方の努力があればこそと敬服しています。ほんの数名の子の「学校がつまらない」も、ぜひ原因を取り除き寄り添ったご指導をお願いします。
- ※コロナの時代で、学校は学習面でも行事の実施においても様々な課題がある中でやってきたと思う。そのような中でも、この学校評価の結果を見ると、校長先生をはじめとした先生方の努力や工夫があったことが伝わってくる。コロナの影響もあり今後も思うようにいかないことが続くかと思いますが、自信をもって取り組んでよいのではないかと思います。
- ※児童アンケート・保護者アンケート共にA評価、またはA+B評価が多い中で、C・Dの少数意見や課題に対する対策を大きなテーマとして取り組んでいただけたら幸いです。
- ※コロナ禍において、行動等に制限がある中、先生方には大変ご苦勞をいただいていると思う。この状態はまだ続くと思いますが、子ども達が満足できる場面を創意工夫して作り出してほしいと思います。我々も「チーム源」の一員として協力していきたいと思います。
- ※子どもを取り巻く環境や心身の健康に関して、コロナ禍の長期化により気になるところです。行動の自粛により、活動が制限され、「学ぶ意欲を失ったら」と思うと、心が痛みます。子ども達がストレスを抱えないように学習活動のみならず心のケアにも気を配ってほしいと思います。
- ※ほとんどの質問でAB群の数字が90%を超えていてすごいなと思いました。本心を言えない児童がいるのかな?とちょっと考えてしまうところもあります。小規模人数の学校なので、地域との関わりも大切に、元気に楽しく安全に通える学校であってほしいです。先生方もコロナでいろいろ大変だと思います。
- ※このような時世の中で、評価結果にAB評価が多いことに正直驚きました。コロナ禍の中で教育活動が制約される中、先生方が様々な工夫をして学校教育を支えていることがありがたいです。
- ※教職員の皆さんには、限られた時間の中で良い対応をしていただいていると感じます。規模の小さい学校ならではの良い所が生かしていると思います。子ども同士の他の学年との関りがもっと増えると良いですね。